

# 平成3年度 和歌山県名匠

## 【<sup>うるし</sup>漆<sup>ぬり</sup>塗<sup>し</sup>師】

<sup>わ</sup>和<sup>だ</sup>田<sup>とし</sup>年<sup>はる</sup>晴

【現住所】海南市

【生年】昭和3年

### 業績及び経歴

昭和20年、県立和歌山商業学校を卒業後、家業の和田漆器店に入り、昭和52年、父の死後同漆器店を継ぎ、現在に至る。

40有余年の長きにわたり、伝統的漆塗技法である花塗の技法を守り続けている。

花塗(塗立ともいう。)は黒江塗の特徴で、<sup>ろいろぬり</sup>呂色塗とは違い、工  
程中研磨することなく塗り放して仕上げる技法で、塗面の張り、  
刷毛目などがなく、しかも塵埃が付着しないよう細心の注意が要  
求される非常に高度な技術である。和田氏は黒江の漆塗師の  
頂点に立ち、その製品の完成度は他の追随を許さないとされて  
いる。

氏の製品は、広蓋、賞状盆、切手盆等の盆類、文庫、硯箱など  
が主で、ほとんどが京都の間屋におろされている。

全国漆器展・伝統的工芸品産業振興協会長賞(昭和59年度)、  
全国漆器展・和歌山県知事賞(昭和56年度、57年度、62年度)、  
全国伝統的工芸品展・奨励賞(昭和56年度、57年度、平成2年  
度)など数多く受賞している。

昭和63年、伝統工芸士(伝統的工芸品産業振興協会)に認  
定されている。